

初期の段階を越した後の飼育では、前年度初めてみられた浮上横転斃死魚対策が大きな課題であった。今年度も、当初はアルテミアの栄養強化にエスター85とマリノメガAを使用した、前年度同様の症状がみられた。そこで、前年度の結果から栄養強化との関連が示唆されていたので、直ちにマリノメガAだけでの栄養強化にしたところ浮上横転斃死魚は全くみられなくなった。浮上横転斃死のメカニズムを明らかにすることはできなかったが対策は可能となった。

II 中間育成

1. 方法

中間育成は図2のEとIで示した従来の場所（海面小割生簀）の他に栽培漁業センターの屋内円形水槽（飼育水量100m³）にも一部収容して行った。

取り上げ及び輸送方法は、活魚輸送タンクから生簀網に送るホースの径を大きくした他はほぼ前年度同様で、水と一緒に稚魚を移動するよう努めた。また屋内円形水槽で中間育成中のものの中から一部取り揚げて海面小割生簀に輸送して中間育成を行なった。

使用した生簀網は3→5→10mm目でサイズは5×5×4mである。餌料はマダイ用配合飼料でビタミン剤を添加した。

2. 結果及び考察

中間育成結果を表2に示した。

1～4区及び9～12区は屋我地島前垣地先及び屋我地島運天原地先で5～7区は辺土名漁港内また8区は屋内円形水槽である。

表2 中間育成

項目 \ 区分		1	2	3	4	5	6	7
中間 収容	月/日	7/3		7/3 (8/6追加)	7/3	7/10	7/10	7/10
	尾数 (尾)	34,000		20,000 (15,000)	20,000	20,000	20,000	20,000
	全長 (x±SDmm)	25.9±3.7		25.9±3.7(53.7±9)	25.9±3.7	22.4±3.5	22.4±3.5	22.4±3.5
中間 育成 取り 揚げ	月/日	10/30	10/30	10/30	10/31	10/18		
	飼育日数 (日)	119	119	119	120	69		
	尾数 (尾)	9,934	5,282	13,653	10,839	682		
	生残率 (%)	44.8		39.0	54.2	1.1		
	尾叉長 (x±SDmm)	84.0±0.87	102.8±0.8	89.8±0.97	96.7±0.89	67		

項目 \ 区分		8	9	10	11	12	合計
中間 収容	月/日	7/10	7/10	7/10	7/25	7/25	
	尾数 (尾)	20,000	20,000	20,000	15,000	15,000	239,000
	全長 (x±SDmm)	22.4±3.5	22.4±3.5	22.4±3.5	38.9±7.7	38.9±7.7	22.4~53.7
中間 育成 取り 揚げ	月/日		11/6	11/6	10/29	10/31	
	飼育日数 (日)		119	119	96	98	69~120
	尾数 (尾)		8,078	7,920	11,763	10,281	78,432
	生残率 (%)		40.4	39.6	78.4	68.5	32.8
	尾叉長 (x±SDmm)		99.5±0.85	100.9±0.9	103.4±1.2	102.3±1.2	67~103